

# 保健部会 研究の構想（案）

平成 26 年度～

## I 研究主題

生涯にわたって主体的に心身の健康づくりに取り組み、健康で安全な生活を営む能力や実践的な態度を育てる健康教育はどのようにすればよいか。

## II 主題設定の趣旨

中学生の健康や安全に関する問題は、社会環境の急激な変化に伴い、近年ますます深刻化している。現代的課題として、いじめや不登校等の心の健康問題、食生活をはじめとする生活習慣の乱れ、生活習慣病の兆候、喫煙・飲酒・薬物乱用、性に関する問題等が挙げられる。さらには、急速に広がる SNS による生活の乱れやネットトラブル、対人関係スキルの低下、また不測の災害時における危機管理等、新たな問題も挙げられている。これらの複雑で多様化した問題に対応していくには、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、生徒が生涯にわたって健康で安全な生活を営むための基礎を培うことが重要である。

学校における健康教育は、「生きる力」の育成を目指して、生徒の健康の保持増進に必要な知識や技能の習得、身近な健康問題を主体的に解決していくための能力や実践的な態度を育てることにある。そのためには、生徒一人一人が自分の健康課題に気づき、健康や安全を意識した行動を選択し、実践していくことのできる健康教育の推進が必要である。

そこで、これまでの研究の成果を踏まえ、生徒の健全なライフスタイルの確立のために、健康づくりへの関心や理解を深め、主体的に健康で安全な生活を選択し、実践できる生徒の育成に焦点を当てて研究を進める。

## III 研究のねらいと内容

### 1 研究のねらい

自らの健康課題を主体的に追究し、健康と安全を意識した行動を選択し、実践することができる生徒の育成を目指した健康教育について研究を進める。

### 2 研究内容

- (1) 指導計画の見直し及び指導の推進
- (2) 指導内容と指導方法の工夫
- (3) 評価の工夫

# 保健部会 平成 26 年度研究計画（案）

## I 研究主題

生涯にわたって主体的に心身の健康づくりに取り組み、健康で安全な生活を営む能力や実践的な態度を育てる健康教育はどのようにすればよいか。

— 生徒が健康で安全な生活を送る方法を自己決定し、実践するための指導の工夫 —

## II 主題について

中学生を取り巻く諸問題は、社会の急激な変化とともにますます複雑になり、深刻化している。現在、いじめや不登校等の心の健康問題、食習慣を含めた生活の乱れ、生活習慣病、喫煙・飲酒・薬物乱用、性に関する問題、さらに昨今、急速に広がる SNS による生活の乱れやネットトラブル、対人関係スキルの低下、また不測の災害時における危機管理等、その種類は多様化している。

これらの健康や安全に関する問題に対応するためには、生徒自身が自分を適切に管理し改善していくことが大切である。健康で安全な生活を営む実践的な態度を育むために、生徒の思考力・判断力等の能力を育成するとともに、自己決定する力を身に付けさせることが必要であり、健康教育の充実が求められている。

これまでの研究により、生徒が自分の健康課題に気付くためには、実態に即した課題を明確に提示すること、生徒同士が関わり合い意識を高め合う場を設定すること等が有効であると分かった。また、生徒の健康行動を支えるためには、学校全体の計画的な取組が必要であり、養護教諭のマネジメント能力やコーディネーター的な役割、P D C A サイクルを生かした計画性のある実践等が必要であることも分かった。

今後は、学校全体の動きを見通した計画性のある取組の工夫、生徒自身が課題設定から実践・評価を繰り返すことで、思考を積み上げ、課題意識を高めていくような指導の工夫が必要と考える。また、生徒・学校・家庭・地域を「つなぐ」取組を実践するために、養護教諭の企画力・調整能力等を高めるなど、コーディネーターとしての役割を生かすための研究も必要と考える。

そこで本年度は、養護教諭の専門性や組織を生かした企画・運営に努め、生徒に自己決定させるための P D C A サイクルを生かした指導を積み重ねながら、健康教育を推進することにより、主題解明に迫りたい。

## III 研究内容とその視点

### 1 指導計画の見直し及び指導の推進

- (1) 生徒一人一人の健康課題を明確にし、課題解決につながる指導を推進する。
  - ・健康診断や健康観察、健康づくりノート、保健室来室状況、保健指導や保健学習等の結果や記録から実態を把握する。
- (2) 教育活動を体系的に捉えて、指導計画を作成し、体制づくりを行う。
  - ・学校保健計画に基づき、教職員の理解のもと、組織的な健康教育を実践する。
  - ・各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間との関連を図りながら指導内容を精選する。

- (3) 家庭及び関係機関・地域等との連携を図る。
  - ・学校保健委員会の企画・運営を工夫したり、家庭との情報交換を工夫したりして活動の充実を図る。

## 2 指導内容と指導方法の工夫

- (1) 生徒同士が関わり合い課題意識や実践意欲を高め合う場や指導方法を工夫する。
  - ・生徒や学校の実態等を考慮し、指導内容を精選する。
  - ・多様な学習形態や指導方法を取り入れ、効果的な指導に努める。（グループ学習、体験的な学習、スキル学習、ピアサポート等）
  - ・生徒による委員会活動の活性化を図る。
- (2) 健康課題に応じた教材や資料を作成・開発し、活用する。
  - ・専門家や関係機関等の協力を得て、効果的な指導を推進する。
  - ・生徒自身の健康への意識を高め、知識を活用するための、教材・資料を工夫する。
  - ・学習環境を整備し、科学的な根拠に基づく資料や教材を作成・開発し、活用する。
- (3) 養護教諭の専門性や保健室の機能を生かした指導を工夫する。
  - ・健康教育のコーディネーターとしての役割を果たし、全教職員や学校三師・専門家等との連携を図りながら、組織的な実践を進める。
  - ・生徒の心身の健康課題を多面的に捉え、生徒の発達の段階に応じた課題や発達障害に対する理解を深め、家庭・関係機関との連携を図りながら、個に応じた支援を行う。
  - ・スクールカウンセラーや特別支援コーディネーター、生徒指導主事等との校内の協力体制を築く。
  - ・養護教諭の専門性を生かした視点で、記録や調査結果等を累積し、活用する。

## 3 評価の工夫

- (1) ねらいに即して評価規準を作成し、その達成度を把握する。
- (2) 健康課題の解決を目指した実践に対し、P D C Aサイクルを生かした評価・改善を行う。
- (3) 生徒自身が課題解決を目指して活動できるように、P D C Aサイクルを生かした自己評価を工夫する。
- (4) 生徒の自己評価や相互評価を活用し、一人一人の自己肯定感や実践への意欲を高める。
- (5) 家庭や地域等からの意見を積極的に取り入れ、指導計画や指導方法の改善に生かす。

## IV 研究方法

- 1 研究主題に対する共通理解を深め、各地区の独自性を生かした研究を進める。
- 2 計画的・組織的に研究を進め、記録を累積・共有し、部員相互の連携を生かして研究を深める。
- 3 実践事例を基に、評価・改善し、研究を進める。
- 4 各地区の情報交換を行い、相互に研究を深める。

